

書評

[評者]

古川壽亮

名古屋市大大学院教授・
精神・認知・行動医学

摂食障害

食べない，食べられない，
食べたら止まらない 第2版
切池信夫 著A5 頁288 2009年
定価3,570円(本体3,400円+税5%)
[ISBN978-4-260-00818-1]医学書院刊

大阪市立大学大学院神経精神医学教授，切池信夫氏の名著『摂食障害―食べない，食べられない，食べたら止まらない』の第2版が出版された。2000年に出版された初版のタイトルを見たとき，「なんと上手にエッセンスをサマライズしたサブタイトルなのだろうか」と，その洒脱さに脱帽し，そこに至る背景にあるに違いない臨床経験の厚みにひそかに感嘆した。そしてその数年後，大阪市大を訪問して切池先生と親しく話をさせていただき，「なるほど，この先生にしてこの名著あり」と，膝を打つ思いがしたことを今でも覚えている。その切池氏が，ライフワークとしてさらに研鑽を重ね，氏ご自身の第2版の序の言葉を借りれば「初版を上梓してから，日常診療において日々工夫を重ね実施している治療法を中心に改訂」されたのが，第2版である。

何を隠そう，私自身は摂食障害と聞くと，「う～ん，大変そうだな」という考えがまず頭をよぎり，そこはかとなくいすの上で居住まいを正してからでないと患者さんに会えない，普通の全般精神科医であるが，そういう精神科医であるからこそ，本書とそのバックボーンとなっている大阪市大での臨床と臨床研究にさまざまな示唆をいただきながら日々の診療をさせてもらえる。

まず私が励まされるのは，第Ⅷ章にある，摂食障害

の予後研究である。海外のデータでは意外にも摂食障害の予後が悪くないことは知っていたが，大阪市大に通院，あるいは入院するほどの患者ですら，10年後予後が良好とされるものが，神経性食思不振症制限型で82%，過食/排出型で50%，神経性過食症で66%とのことである。大阪市大での治療のおかげであることはもちろんだが，しかし，大阪市大の専門治療に来るほどの重症例でもこのような結果が得られるということに，私は大いに励まされている。

次に役立ちそうなのは，Introductionとして今回加筆された，「はじめて摂食障害患者を診る医師のQ&A」で，何をもって病的なダイエットといえるか，摂食障害が治るとは，学校などから相談を受けたときには，など，「ああ切池氏をはじめとする大阪市大の専門家たちもこのような質問を受けてきつと考え込みながら臨床経験を積まれたのだろうか」と，これまた励まされるのである。

そしてもちろん一番役立つのは，第Ⅴ章に詳述されている患者の評価方法，第Ⅶ章の治療方法（「治療は難しい」と銘打たれた章を読んで，励まされない臨床家がいようか！），そして付録に収載された患者用パンフレットであろう。本書をもって私の臨床が，そして私の教室の臨床が，そして日本中の臨床がまた前進することを祈っている。